

Ⅱ 实 践 事 例

1 単元名 たのしい あき いっぱい（総時間 21 時間）



2 指導観

- 本学級の児童14人（男子9人，女子5人）は、「なつがやってきた」において，水遊びやシャボン玉などの遊びを楽しむ学習ができた。しかし，まだ自分中心での活動が主で，周りの人と関わりながら活動しようという意識や，工夫してもっと楽しく活動しようという意識は薄い。

校庭に虫が見られるようになると，休み時間に虫捕りをする子どもが増えてきた。しかし，捕まえることを楽しむことがほとんどで，自然の様子に目を向けようという意識はまだあまり育っていない。また，学習したことを振り返り，表現することについては，したことや思ったことを絵や文で表現したり，自分や友達のよさや頑張りに気付いたりするまでには至っていない。

- 本単元は，学習指導要領の内容（5）「季節の変化と生活」（6）「自然や物を使った遊び」を受けて設定した。身近な自然を観察したり，利用して遊んだりする活動を通して，それらの違いや特徴を見付けたり，遊びや遊びに使う物を工夫してつくったりすることができ，その面白さや自然の様子や四季の変化，自然の不思議さに気付くとともに，それらを取り入れ自分の生活を楽しくしようとしたり，みんなと楽しみながら遊びを創り出そうとしたりすることを目指している。本単元では，秋の自然の中で，秋の物を見つけれたりそれを使って遊んだりする活動を通して，自然の様子や特徴，面白さなどに気付き，進んで自然に関わったりもっと楽しくなるように工夫したりすることで，身近な自然を取り入れることで自分の生活をより楽しいものにすることができるようにすることをねらいとしている。また，友達との関わり合い方を学び，人との関りのよさや楽しさを味わったり，豊かな人間関係を築いたりする上でも，たいへん意義深いものとする。

- 本単元の指導に当たっては，導入で秋を感じる物についてたずね，その話題を交流し合いながら，秋の自然に対する興味や関心を持てるようにする。また，校庭で秋見つけをする際には，休み時間などにも見つけた物を集めて良いことを伝え，興味や関心を高めていくようにする。それを使って制作活動をする中で，「あきっていいね。」という気持ちをさらに強め，みんなで秋を楽しもうとする気持ちを引き出すことができるようにしたい。

追究する段階では，集めた材料で自由に遊びながら，友達と交流していくようにする。そして，共通した遊びについて試行錯誤する機会を設ける。そこで出た気づきや疑問を共有する活動を通して，「もっと〇〇したい」や「〇〇さんみたいにしたい」などの児童の「本気」を引き出したい。

深める段階では，それぞれの遊びについて，どう変わってきたかを問いかけ，児童の気づきを認めたり称賛したりする。児童同士が互いに知恵を出し合い試行錯誤してきた作品や遊びを通して，よりよいものになったことを実感させることで，自分自身の成長に気付かせ，

達成感につなげたい。また、単元終了後もいろいろな人と関わることのよさを繰り返し味わえるようにしていきたい。

食育については、芋掘りで掘ったさつまいもを持ち帰り調理してもらった経験を出し合うことで、それに関わるたくさんの人がいることに気付かせ、食物や人に感謝する気持ちへとつないでいく。感謝の気持ちを、あきまつりで誰に、どのように伝えるかを話し合っ決めていく。

- 食育の指導に当たっては、さつまいもを育てたり収穫したりすることを通して、その大変さや喜びを味わい、食べ物のありがたさやそれに関わる人が多くいることに気付くことができるようにしたい。また、持ち帰ったさつまいもを各家庭や施設に協力してもらい、調理してもらって食べることで、さらにその気付きを深め自分の生活を振り返ることができるようにする。

3 単元の目標と評価規準

○単元の目標

秋の自然と関わる活動を通して、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、身近な自然の違いや特徴を見付けたりすることができ、自然の様子や四季の変化に気付いたり、遊びの面白さや自然の不思議さに気付いたりするとともに、身近な自然を取り入れ自分の生活を楽しくしようとするようにする。

○評価規準

知識・技能	○ 秋の自然と関わる活動を通して、自然の様子や四季の変化、季節によって生活の様子が変わること、遊びや遊びに使う物を工夫してつくることの面白さ、みんなでアイデアを出して計画することの大切さや楽しさ、自然の不思議さに気付いている。
思考・判断・表現	○ 秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然の違いや特徴を見付けたり、身近な自然を使って、遊びや遊びに使う物を工夫してつくったり、楽しくなるよう考えたりしている。また、あきまつりを成功させるにはどうしたらよいか考え、話したり書いたりしている。
主体的に学習に取り組む態度	○ 秋の自然と関わる活動を通して、身近な自然を取り入れ、みんなと楽しみながら遊びを創り出したり、みんなで協力して計画を立てたりしながら、自分の生活を楽しくしようとしている。また、友達の話に興味を持って聞くなど、人と関わることを楽しもうとしている。

4 食育の視点

食事の重要性（重）	◇食べ物に興味・関心をもち、楽しく食事ができる。
心身の健康（健）	◇好き嫌いせずに食べることの大切さを考えることができる。
食品を選択する能力（選）	◇色々な食べ物や料理の名前がわかる。
感謝の心（感）	◇食事のあいさつの大切さがわかる。

5 指導計画と評価計画（総時数 21 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1 こうていであきをさがそう。 (1) 校庭で、秋の草花や虫などの動植物を観察したり集めたりする。① (2) 夏の様子と比べて変わっているところを出し合ったり、見つけたことをカードに書いたりする。①	○ 夏と比べて考えることができるよう問いかけるなどして、季節が変わったことを意識できるようにする。 ○ 一人一人が見つけたことを全体に広め、共有できるようにする。	【思・判・表】 幼児期や日常の経験を思い起こして、秋の自然の特徴を探している。(発言・行動観察) 【知・技】 色や形、においなど、秋の校庭の自然の様子と、夏の校庭の自然の様子との違いに気付いている。(発言・ワークシート)
2 こうえんであきをさがそう。	○ 夏との違いに気付いたり、季節の遊びの楽しさに気付いたりできるようにする。	【知・技】 身近な自然の様子が、夏から秋になって変化していることに気付いている。(発言)
3 はっぱやみであそぼう。 (1) グリーンパークに行き、遊んだり自然を観察したりする。⑤ (2) 今津公園で、秋の自然の中で遊んだり、葉や木の実などの自然物を使って遊んだり簡単なおもちゃを作って遊んだりする。② (3) 遊んだり見つけたりしたことをカードに書く。①	○ 後日学校でも続けて遊べるよう、気に入ったものを集めて持ち帰るようにする。	【思・判・表】 秋の自然物を使うと、どんな遊びになりそうかを想像しながら、遊びに使う自然物を選んでいく。(行動観察・ワークシート)
4 あきのおもちゃをつくろう。 (1) 集めた材料を使って、考えた遊びやおもちゃなどを、工夫して作る。①	○ それぞれが自由に思いついた遊びやおもちゃを作りながら、自然に交流できるよ	【思・判・表】 さまざまな自然物を試しながら比べ、材料を選び、おもちゃをつくっている。(発言・

(2) 友達と一緒に遊び、もっと楽しく遊べるように工夫する。② 5 みんなであきまつりをしよう。 (1) あきまつりの計画を立てる。① (2) 必要なものを準備したり作ったりする。⑤ (3) 工夫したもので、みんなで遊びを楽しむ。 〈本時〉① (4) 作ったり遊んだりしたことについて振り返る。①	うにする。 ○ 友達と交流することで、工夫や発見を共有できるようにし、よりよいものへと作り替えていけるようにする。 ○ 遊びだけでなく、ルールを作ったり環境を整えたりすることにも気付くことができるようにする。 ○ 途中で役割を交代し、みんなが十分に活動を楽しむことができるようにする。 ○ これまでに作ったものや活動の様子の写真などを見せ、学習を振り返ることができるようにする。	行動観察) 【主】 試行錯誤しながら、秋の自然を生かした遊びを楽しもうとしている。(発言・行動観察) 【主】 みんなで協力して計画を立てようとしている。(発言・行動観察) 【主】 自分で遊びをつくり出す面白さを実感し、遊びを創り出そうとしている。(発言・行動観察) 【思・判・表】 あきまつりを成功させるにはどうしたらよいか考え、行動している。(発言・行動観察) 【知・技】 自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。(発言・ワークシート) 【主】 自分で遊びを創り出す面白さを実感し、これからも遊びを創り出そうとしている。(発言・ワークシート) 【食(感)】 さつまいもを食べるまでを振り返って、そこに関わった人々へ感謝する気持ちを伝えようとしている。(発言・行動観察・作品)
--	--	---

6 本時の学習 令和2年11月13日（金） 第5校時 於 教室・生活科室

(1) 主 眼 あきまつりが成功するように考えて行動することで、みんなが楽しく遊ぶことができることに気付き、生活を楽しくしようにすることができるようにする。

(2) 準 備 児童・・・作ったおもちゃなど

教師・・・店番交代の音楽・振り返りカード

(3) 展 開

主な学習活動	○ 指導・支援上の留意点 【観点】評価規準（評価方法）
1 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。	○ 前時までに、みんなで秋を楽しむために遊びやおもちゃを工夫してきたことを想起させる。本時は、自分の担当する遊びの説明などをしたり、ルールを守って遊んだりすることを確認する。
めあて みんなで たのしく 1ねん1くみあきまつりをしよう。	
2 つくった遊びやおもちゃで遊ぶ。 <遊びやおもちゃ> ・どんぐりごま ・どんぐりロケット ・さかなつり ・まといれ ・やじろべえ ・こすりだし ・アクセサリ	○ 途中で音楽が鳴ったら、店番とお客さんを交代する。 【思・判・表】 あきまつりを成功させるにはどうしたらよいか考え、行動している。（発言・行動観察） <環境づくり> ・こすりだし ・秋のものでアート ・パソコンで秋の絵を描く ・作ってもらったおいもりょうりコーナ
3. 本時の学習を振り返る。 (1) カードに書く。 (2) 書いたことを発表する。 おきやくさんにこまのじょうずなまわしかたをおしえてあげたら、よろこんでくれたのでうれしかったよ。 すきなものをえらんでアクセサリを作れたから、たのしかったよ。	【知・技】 自分が遊びを創り出したことで、みんなが楽しく遊ぶことができるようになったことに気付いている。（発言・ワークシート） ○ 自分ががんばったことやうれしかったこと、友達の良かったところをカードに書き発表することで、自分自身のがんばりに気付くことができるようにする。 ○ 振り返りを全体で交流し、活動についてまとめることができるようにする。 ○ 活動中の児童の姿やカードをもとに、工夫して活動した児童を認めることで、次時への意欲付けができるようにする。 ○ 次時は、これまでの振り返りをすることを予告する。

7 授業の実際

学 習 活 動	教師のはたらきかけと児童の反応																		
< 5 (2) 4 / 5 時 から > 1 持ち帰ったサツマイモについて想起する。 2 どんな食べ方をしたか紹介する。	T この前みんなで掘って持って帰ったサツマイモはもう食べましたか？ どうだった？ C おいしかった！ T 先生も、スイートポテトやいもけんぴにして食べました。 T みんなもどんな料理をしてもらったか、教えて下さい。 C 焼きいも C みそ汁 C 天ぷら、・・・(以下いろいろな料理名が出る)。→ つくってもらった さつまいもりょうり。 <table border="0"> <tr> <td>・ やきいも</td> <td>・ さつまいもごはん</td> </tr> <tr> <td>・ スイートポテト</td> <td>・ 汁の具 (みそしる・ぶたじる)</td> </tr> <tr> <td>・ さつまいもスティック</td> <td>・ さつまいもスープ</td> </tr> <tr> <td>・ さつまいもチップス</td> <td>・ さつまいもピザ</td> </tr> <tr> <td>・ さつまいもけんぴ</td> <td>・ さつまいもバター</td> </tr> <tr> <td>・ さつまいももち</td> <td>・ さつまいものバターしょうゆやき</td> </tr> <tr> <td>・ さつまいもとりんごのコンポート</td> <td>・ さつまいもの天ぷら</td> </tr> <tr> <td>・ さつまいもむしパン</td> <td>・ さつまいもコロッケ</td> </tr> <tr> <td>・ さつまいもようかん</td> <td></td> </tr> </table> T 写真や料理の仕方を教えてもらって持ってきてくれたお友達がいるので、お話ししてくれますか？ C さつまいもごはんを作ってもらいました。 C これはさつまいもピザです。 C スイートポテトの作り方は、・・・(レシピを見ながら話す)。 T いろいろ作ってもらいましたね。良かったね。 T みんなが教えてくれたものを、秋祭りに来てくれた人に知ってもらえるようにするには、どうしたらいいかな？ C 紙で作ったらいいいよ。保育園の時作ったことがあるよ。 T でも、サツマイモみたいに丸くできるのかな？ C 新聞紙を丸めて紙で包んだらいいよ。 T 他にも何かできる方法はあるかな？ C 絵に描いたらいいよ。 T それもいいね。じゃあ、みんなで食べた物を作ったり描いたりして、サツマイモ料理コーナーを作ろうね。	・ やきいも	・ さつまいもごはん	・ スイートポテト	・ 汁の具 (みそしる・ぶたじる)	・ さつまいもスティック	・ さつまいもスープ	・ さつまいもチップス	・ さつまいもピザ	・ さつまいもけんぴ	・ さつまいもバター	・ さつまいももち	・ さつまいものバターしょうゆやき	・ さつまいもとりんごのコンポート	・ さつまいもの天ぷら	・ さつまいもむしパン	・ さつまいもコロッケ	・ さつまいもようかん	
・ やきいも	・ さつまいもごはん																		
・ スイートポテト	・ 汁の具 (みそしる・ぶたじる)																		
・ さつまいもスティック	・ さつまいもスープ																		
・ さつまいもチップス	・ さつまいもピザ																		
・ さつまいもけんぴ	・ さつまいもバター																		
・ さつまいももち	・ さつまいものバターしょうゆやき																		
・ さつまいもとりんごのコンポート	・ さつまいもの天ぷら																		
・ さつまいもむしパン	・ さつまいもコロッケ																		
・ さつまいもようかん																			



<本時から>

1. 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。
2. つくった遊びやおもちやで遊ぶ。



T Aグループがお店屋さんです。スタートします。

C いらっしやいませ～！

T どうやっておすすめするの？

C ここに書いてる →



C (毛糸に) つかないよ

C こうやってするといいよ。



C おめでとう。

C もう一回いいですよ。

C 自分で作るか買うか選べますよ。



C 落ち込むのは早いですよ。

20回までできますよ。

3. 本時の学習を振り返る。

T 自分ががんばったことやうれしかったこと、お友達のよかったところを書きましょう。

T 自分のことを発表してください。

C たくさんの人に来てもらってうれしかったです。

C 自分のお店がいっぱい売れてうれしかったです。

C 「ありがとう」と言われてうれしかったです。

T 友達のことを発表してください。

C 「やっていいですか？」って聞いたら、すぐに準備してくれてうれしかったです。

C 笑顔でお迎えしてくれてうれしかったです。

T こんなに「うれしい」って出るのはどうしてかな？

C みんなでがんばったから。

T みんなが自分のことをがんばったから、みんながうれしい気持ちになったんだね。

T 今日のお店屋さんは

TC 大成功！



<考察>

手立て1 つながりや関わりを豊かに創り出す子どもを育む条件を備えた地域素材の教材化

毎年、生活科の学習「まちたんけん」にてよく訪れる今津公園は、程よい広さできちんと整備されており、学年規模で活動しやすいところである。特に秋は、広場にバッタやコオロギなどいろいろな虫がいたり、どんぐりがたくさんあったりして、学習に最適である。また、遊具で遊んだり、小山を駆け下りたりなど自由に遊べるので、子ども達は開放的な気分になり、いろいろな楽しみ方ができる。十分に活動時間を取ることで、次第に活動の幅が広がり、友達と自然や遊具を使った遊びをしたり、競うようにたくさんの秋のものを集めたりすることができた。

手立て2 地域の「ひと・もの・こと」とのつながりや関わりを大切にした学習過程の工夫

例年1年生は、春に学級園と地域のふれあい農園の2カ所にサツマイモを植えている。特にふれあい農園では、地域の方と一緒に植えたり収穫したりしている。その交流をもとに、収穫したサツマイモと一緒に食べたり、秋祭りに招待したりする計画を立てることで、より地域を身近に感じ感謝の気持ちを持ったり、自分たちで作ったものを大事に食べようとする気持ちを育んだりすることができると考える。

手立て3 気付きの質やものの見方、考え方を高め、学びの深まりを実感するための話し合い活動の工夫

集めた材料を使っておもちゃを作る段階で、多くの子ども達は「どんぐりごま」を作ることに夢中になった。いくつも作っていくうちに、穴を開ける場所や軸の長さを調節するとよく回ることに気づき、自分の「どんぐりごま」を改良していった。そのうち作った「どんぐりごま」で友達と競争して楽しむようになり、より長く回るようにするにはどうすればよいかを考え始めた。学習活動の中で子ども達は自然とお互いに会話し、情報交換しながら試行錯誤を行った。そこで、これまでにわかったことや困っていることを共有するために、掲示板を作って貼り出した。それを見ることで、自分の知りたい情報を手に入れ作品を改良したり、困っている友達に教えたりする活動を自然に行うことができた。

<成果>

- ・主体的に「ひと・もの・こと」と関わり、楽しく遊びを創り出す力

自分の作った遊びをよりよいものにしていく上で、人と交流することは欠かすことのできないものである。それを続けることで、自ら情報を得るために人と関わる姿が見られ、より楽しく遊びを創り出していくことができた。また、それを楽しむことで、自分だけでなく友達の活動の様子を見て、その良さを見付けることもできた。

じぶんが がんばったことや うれしかったことを かこう。
たくさんのひとにやっ
てもらってうれしかったです。

ともだちの よかったところを かこう。
えがおでおいしく
くれたのがうれしかったです。

ともだちの よかったところを かこう。
のあしをがたがたにうた
いだす。

- ・食への興味・関心の高まり

サツマイモを育てて収穫したり，持ち帰ったりすることで，食べたいという意欲が高まった。さらに家庭で調理してもらうことで期待が膨らみ，よりおいしかったと満足することができたと考える。また，食べた料理について学級で共有することで，次はこんな料理が食べたいと考えるようになり，もっといろいろなことを知りたいという欲求につながっていった。

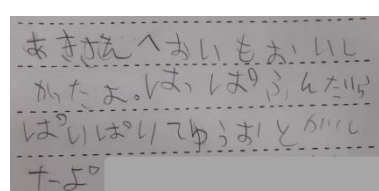
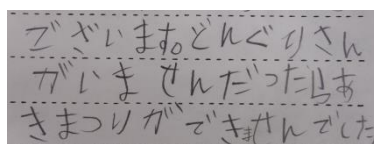
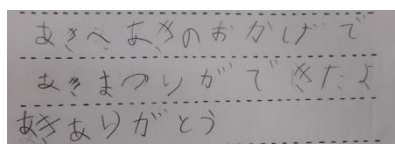
給食においても，事前に献立を書いておくようにしたり，献立の説明をしたりすることを続けていくうちに，給食の時間を楽しみに思う子どもが増えた。献立の材料などに興味をもち，栄養教諭に進んで質問する様子が見られるようになった。また，食に関する絵本の読み聞かせを通して，食べ物を大事にする気持ちを高めることができた。

- ・子どもの意識の流れを大切に学習過程

コロナ禍での授業実践ということで，当初計画していた学習計画では進められなくなり，変更を余儀なくされた。採れたサツマイモを学校で食べる予定だったが，各自，持ち帰って家庭で調理してもらった。その様子や過程を表現する方法として，子どもから「紙で作ったらいい」とアイデアが生まれた。食べた料理を再現した作品を作ったり，絵に描いたりして表すことができた。また，調理したものの写真を提供して下さる家庭もあった。

学習を深める段階では，秋を十分楽しむことができた喜びを伝えようと，秋に感謝のお手紙を書くことを取り入れた。

集めた秋のものを自然に返す時に，その手紙を読み，秋の学習を振り返って季節を改めて感じたり，次の冬もまた楽しもうという気持ちを持ったりすることができた。



<課題>

- ・指導計画の見直し

本来なら，これまでにお世話になった方などを招待して秋まつりをしたり，一緒にサツマイモを食べたりする計画であったが，今年度はそれができず今回のように指導計画を変更した。食育という面からも，地域の方や友達と一緒に食べるということは低学年では大切だと考える。よりよい実践にするためにも，別の方法を考えることも必要だと感じた。

- ・家庭との連携の難しさ

サツマイモを持ち帰る前に，各家庭に献立や調理の様子など，子ども達に分かる範囲で見せたり知らせたりしていただけたようお願いしておいた。それを学校で生活科の学習時に子ども達に尋ねるといことも，子ども達にも伝えていた。家庭によっては写真やレシピを持たせたり，いろいろな調理法で何度か作ったりしていただいた。しかし，協力が難しい家庭もあり，連携の仕方の工夫を考える必要がある。

2 第6学年1組 総合的な学習の時間指導案

指導者 廣石 照子

1 単元名 12歳の力で ～「食」×SDGs グルメにチャレンジ～



2 指導観

- 本学級の児童（男子5名，女子8名）は，男女共に仲が良く，学習に対して何事にも真面目に取り組む。調べ学習などで個々の発表する場においても，興味をもって聞き，自分の考えを深めたり，アドバイスをしたりするなど積極的に行っている。

「食」に関する学習では，3年生の国語科・総合的な学習の時間では「松北大豆大作戦」，4年生の社会科・総合的な学習の時間では「我が町の誇り猿喰新田！PR大作戦！」の学習を通して，「ひと・もの・こと」を食と結び付けながら郷土を愛し，誇りに思う心が育っている。また，「食」に対する関心が高いことから，給食時には食材や味について会話をしている姿がよく見られる。しかし，「家で料理をしている・手伝いをしている」という児童は少なく，「作ってもらって食べるだけ」という児童がほとんどである。

そこで，本単元を通して，料理をしたり，農作物等を育てたりする人の思いや願いに気付いてほしいと考える。また，自らも料理をすることで健康的な食事の在り方を考えたり，食生活をよりよくしようとしたりする意欲を育てたい。そして，一連の学習活動を通して，食べ物を大事にし，食量の生産等に関わる人々へ感謝する心を育んでいきたい。

- 本単元は，家庭科・体育科保健領域等で学習した内容を関連させ，さらに追究してみたい「食」に関するテーマを課題とし，個やグループで調べ，発表し合う活動を通して，食育の視点でもある心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し，自ら管理していく能力を身に付け，食事の喜び，楽しさを実感することができると考える。また，感謝の心や日々の暮らしの中でできるSDGs（持続可能な開発目標）の視点をもつことができる意義深い学習である。
- 本単元全体を通して，探究的な学習にするために以下のような学習過程を工夫する。

① 課題の設定

導入では「なぜ食べるのか」ということについて考えさせる。修学旅行で行く予定であったレストランの料理の写真をしながらバイキング形式での食事疑似体験活動を通して，栄養バランスを考えた食事について振り返る。選んだ食事は揚げ物が多いことに気付き，次にそのような食生活を続けるとどんなことが起こるのか，実験を通して，疑問や関心を高める。野菜不足（食物繊維）や塩分・糖分・脂肪の摂り過ぎ，運動不足などの健康によくない生活の積み重ねで健康によくない生活習慣の積み重ねが生活習慣病を引き起こすことを知り，そこからまた新たな課題を見設定する。

② 情報収集

自らの課題解決を行うため，情報を取り出したり集めたりし，友達と意見交換をしながら必要な情報を確定していく。その際，資料やインターネットを活用した調べ学習をしたり，必要に応じて栄養教諭の話を聞いたりすることなど健康を考えた食事をしていこうと

する意欲を高め、自分の食生活に生かそうとすることができるよう学習方法を工夫する。

③ 整理・分析

収集した多様な情報を思考ツール（クラゲチャート・KJ法・Yチャート等）を活用しながら整理したり分析したりして、思考する活動へと高めていく。種類ごとに分ける等して整理したり、細分化して因果関係を導き出したりして分析する。このような学習活動を通して、収集した情報を比較したり、分類したり、関係づけたりして情報内の整理していく。

④ まとめ・表現

情報の整理・分析を行った後、人に伝えたり自分自身の考えとしてまとめたりするための活動を行う。そこで、食事の重要性、健康的な生活を送るためにはバランスのとれた食生活が大切であることを理解したことを踏まえ、献立作りに取り組みさせる。また、考えた献立を友達やGT（栄養教諭）伝えたいという意識を高め、相手や目的意識を明確にする。さらに、友達にアドバイスをもらったり、SDGsとのつながりを生かした献立ができないか提案しながら修正したりする活動を繰り返すことで自分自身の考えや新たな課題を自覚させる。

このように繰り返し探究的な学習を行うことで、単元終了時には持続可能な社会づくりに児童自身も主体的に参画しようとする意識をもたせるとともに健康で生き生きとした生活を送ることを目指し、一人一人が食事の在り方や望ましい食習慣を身に付け、自らの健康管理が出来るような児童を育てていきたい。

3 単元目標

知識・技能	○情報収集を比較、分類、関連付けるなど、探究の過程に応じた技能を身に付ける。 ○健康や食についての理解を深め、食に関連する「人・もの・こと」とのつながりや関わりの大切さに気付く。
思考・判断・表現	○実生活での体験活動等を通して課題を設定し、課題解決に向けて計画を立てることができる。 ○効果的な情報収集の方法を自分なりに考え、課題に合わせて思考ツール等の手段を選択することができる。 ○相手や目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、工夫して表現することができる。
主体的に学習に取り組む力	○課題解決のために自ら計画を立てて取り組み、主体的に調べようとしている。 ○友達と主体的・協働的に学習に取り組もうとしているとともに心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を考え、実践しようとしている。 ○学んだこと、感じた思いや願いを生かし、自分自身の生活を見つめ直し、これからの生き方に生かしていこうとする。

4 食育の視点

食事の重要性（重）	◇食事の重要性，食事の喜び，楽しさを理解する。
心身の健康（健）	◇心身の成長や健康の保持増進の上で望ましい栄養や食事のとり方を理解し，自ら管理していく能力を身に付ける。
食品を選択する能力（選）	◇正しい知識・情報に基づいて，食品の品質及び安全性等について自ら判断できる能力を身に付ける。
感謝の心（感）	◇食べ物を大事にし，食料の生産等に関わる人々へ感謝する心をもつ。
社会性（社）	◇食事のマナーや食事を通じた人間関係形成能力を身に付ける。
食文化（文）	◇各地域の産物，食文化や食に関わる歴史等を理解し，尊重する心をもつ。

5 指導計画と評価計画（総時数時間 22 時間）

主な学習活動・内容	指導・支援上の留意点	評価規準及び評価方法
1 日常の食事や使われている食品について話し合う。③ (1) なぜ食べるのかを考「食」に関することを話し合う。① (2) バイキングレストランに行ったつもりになって，食事体験をしよう。① (3) 「食」に関するよい点や問題点について話し合う。①	○ 話し合いが深まるように視点を示し，これからの活動についての意欲を高める。 ○ 自分の食生活をふり返らせる手立てとして，バイキングに行ったと想定させ，食事疑似体験を設定する。 ○ 自分の食事は栄養のバランスが整っていたのか，食事の量は適していたのか，見直す。これにより，自分の食生活の課題を明確にさせ，改善に向けた具体的な対策を立てることができるようになる。	【主】【食(重)】 「食」に関心をもち，意欲的に学習に取り組もうとしている。(発言分析，記述分析) 【主】【食(健)】 他者と意欲的に関わり，自分らしさを発揮して進んで取り組もうとしている。(発言分析，行動分析) 【思・判・表】【食(健)】 食事のとり方を見直したり，他者と関わったりする中で課題を設定することができる。(発言分析・行動分析) 【知・技】 健康によくない生活習慣の積み重ねが生活習慣病を引き起こすことを理解している。(記述分析)
2 生活習慣病の予防について考える。⑦ (1) 健康な血管と狭くなった血管を比べて，気付い	○実験を通して，健康によくない生活習慣の積み重ねが生活習慣病を引き起こすことに気付くことができるよ	

たことを話し合い、疑問を出し合う。① (2) 課題別に調べ学習を行う。② (3) 調べた情報を整理・分析し、伝えたい内容をまとめる。③ (4) 調べたことを伝え合う。①	うにする。 ○ 生活習慣病についての疑問や予防の方法について関心をもたせ、課題を見付けることができるようにする。 ○ 図書室の本やインターネットでの調べる活動を行い、課題解決を図る。 ○ 栄養教諭と連携を図り、振り返りの場面で自分たちの活動や気づきについて称賛やアドバイスをもらう。 ○ 「健康的な食生活をするためには、どうしたらよいか」と問い、意欲を高める。	【思・判・表】【食(健)】 自分自身の生活を見つめ直し、実験を通して、課題を設定し、課題解決に向けて計画を立てることができる。(発言分析・記述分析) 【知・技】 調べたい資料を適切な方法を選択して調べることができる。(行動分析) 【思・判・表】【食(健)】 目的、意図に応じて分かりやすくまとめ、工夫して表現することができる。(発言分析)
3 バランスのとれた食生活を考える。① (1) 1食分の献立づくりについて提案し、見通しをもつ。① (2) 朝食・昼食・夕食、3つのグループに分かれ、献立作りをする。② (3) 出来上がった献立を分析・整理し、どのような発表を行うか、グループで話し合う。② (4) 発表の準備をする。②	○ 既習した「生活習慣病の予防」「栄養バランス」「SDGs」の視点から献立を考えることができるように促す。 ○ クラゲチャートを活用していろいろな視点から整理し、まとめることができるようにする。 ○ グループが作った献立	【主】【食(重)】 「食」に関心を持ち、意欲的に学習に取り組もうとしている。 【主】 他者と意欲的に関わり、探究活動に進んで取り組もうとしている。(行動分析) 【知・技】 【食(選)】 効果的な手段を理解し、比較、分類、関連付けをする方法を身に付けている。(発言分析・記述分析) 【思・判・表】

(5) グループで作った献立を 発表し、友達やG Tに アドバイスをもらう。 く本時 2/2>② (6) アドバイスを基に修 正し献立を作り直す。 ① (7) もう一度発表する。 ① 4 学習の振り返りを行 う。①	を見直し、栄養教諭に具体 的なアドバイスをもらう ようにする。 ○ アドバイスを基に修正・ 改善を行い、健康的な食生 活を工夫することができる ようにする。	【食(重・健)】 自分の思いや考えを進ん で発表し、他者と交流する ことができる。(発言分析・ 記述分析) 【知・技】【食(健)】 探究的な学習のよさを理 解することができる。(発言 分析・行動分析) 【主】【食(重)】 自分自身の生活を見つめ 直し、これからの生き方に 生かそうとすることができる。 (発言分析・記述分析)
--	--	--

6 本時の学習 令和2年12月11日(金) 第5校時 於6年1組教室

- (1) 主 眼 グループで考えた1食分の献立を発表したり、アドバイスをし合ったりする活動を通して、「SDGs」を意識した「バランスのよい食事」について考えることができるようにする。

く食育の視点> 日常の食事に関心をもち、栄養のバランスのとれた食事の大切さが理解できるようにする。**【食事の重要性・心身の健康】**

- (3) 準 備 ワークシート 発表資料

- (4) 展 開

主な学習活動	○指導・支援上の留意点 【観点】評価規準(評価方法)
1 前時の学習を想起し、本時のめあてを確かめる。	○ 前時の振り返りを基に、本時の学習の見通しを確認する。
めあて グループで考えた献立を発表して、アドバイスをもらい、よりよい献立について話し合おう。	

2 本時の時間の流れを確認する。	○ 伝え合いのポイントを確認し、双方向の伝え合いができるようにする。
伝える側・・・自分たちの考えた献立を、相手に分かりやすく伝える。 聞く側・・・相手の考えを受け止めながら聞き、良い点や「もっとこうしたらよいね」(修正点)、感じたことを伝える。	
3 朝食・昼食・夕食グループの発表を聞き、よい点や修正点など話し合う。	【思・判・表】 【食(重・健)】 自分の思いや考えを進んで発表し、他者と交流することができる。(発言分析・記述分析) ○ 全部のグループが考えた献立は、「生きていくために必要なこと(健康・環境)」を考えながら作っていることを称賛し、これからも大切にしていきたいという気持ちを高める。
4 栄養教諭のアドバイスを聞く。	○ GTは、食事の重要性や心身の健康を保持増進させるうえで、望ましい栄養や食事のとり方に気付いているグループや内容を称賛し、さらにより良い献立を作ろうとする意欲を高める。
5 本時を振り返り、次時のめあてを確認する。	○ 児童の振り返りでは、友達やGTのアドバイスを聞いて自分の考えが変わった児童や次時への意欲を高めている児童を見取り、意図的に指名する。そうすることで、本時のまとめとし、次時への意欲を高め、学習内容の見通しを立てる。

7 授業の実際

学習活動	教師のはたらきかけと児童の反応
1 前時学習を想起し、本時のめあてを確かめる。	○ 前時の振り返りを基に、本時の学習の見通しを確認する。
めあて グループで考えた献立を発表して、アドバイスをもらい、よりよい献立について話し合おう。	
2 本時の時間の流れを確認する。	T 「よりよい」とは、どういうこと？ C もっとよいものにするということ。 ○ 伝え合いのポイントを、双方向の伝え合いができるように確認する。(全員が声を出して読む。)
3 朝食・昼食・夕食グループの発表を聞き、よい点や修正点など話し合う。	

伝える側・・・自分たちの考えた献立を、相手に分かりやすく伝える。

聞く側・・・相手の考えを受け止めながら聞き、良い点や「もっとこうしたらよいね」(修正点)、感じたことを伝える。

<昼食グループ>抜粋

C 今から昼ご飯チームの発表をはじめます。

私たちが考えたSDGsのグルメは6つあります。

1つ目は地域の野菜を使った「肉じゃが」です。じゃがいも・人参・玉ねぎは地域のものを使います。じゃがいもは、皮ごと丁寧に洗い、(画用紙で作った包丁を見せながら)包丁のこの部分

で、芽の部分を取り取ります。人参の皮は、ピーラーでむきます。むいた人参の皮は後で使うので取っておきます。玉ねぎの皮も後で使うので捨てないでください。SDGsの視点から見ると⑧番の働きがいと経済成長、⑯番の陸の豊かさを守ろうに当てはまります。牛肉も国産のものを使うとよいです。この肉じゃがは、黄・赤・緑のグループ全部に当てはまっています、栄養もばっちりです。

2つ目のグルメは「とろろこんぶ汁」です。塩・けずりぶし・しょうゆは国産のものを使います。ねぎは、地元のものを使います。すると⑧番の働きがいも経済成長に当てはまります。

C 3つ目は「シンプルピラフ」です。米は猿喰の米を使い、とぎ汁は炊きにまきます。ここで取っておいた玉ねぎの皮を水に浸して、炊飯器の中に入れます。玉ねぎの皮から栄養が出るからです。とうもろこしも、地元のものを使います。人参の皮・じゃがいもは、さっき肉じゃがで使った残りを使います。

4つ目は「キャベツのアーモンドあえ」です。キャベツは地元のものを使います。芯も使うので捨てないでください。そうすることでSDGsの⑧⑯番も達成することができます。

5つ目は「キャベツのしんで、きんぴらいため」です。キャベツ・人参は地元のものを使います。ここで、芯を使います。芯には葉の約2倍のカルシウムが含まれています。味付けは、みりん・しょうゆ・ごま油で、ピリッとさせるために一味とうがらしを入れます。

6つ目は「糖質オフオレンジピールチョコクッキー」です。このクッキーは糖質オフ



オリジナルのこん立てを発表している児童



具体物を作って、料理方法も伝えている場面

なので、生活習慣病を意識して作りました。卵とみかんは地元のものを使い、材料は、みかんの皮・牛乳・卵・大豆粉・アーモンドプードル。アーモンドプードルとは、アーモンドをくだいて、粉末状にしたものです。そして、高カカオチョコを入れます。好みでくるみを入れてもいいです。

C 以上です。アドバイスをください。

C はい！いろいろな皮を使っているところがいいと思いました。

C 地元のものを使っているところが良かったです。レシピが細かく、分かりやすかったです。

C 地元は地元でも、もっとくわしく調べると良かったと思います。

C 塩・しょうゆ・油など多くて、体に悪い感じがしました。

C こん立てが多い感じがしたので、量を考えればいいかと思いました。



前時でアドバイスを受けた児童、ポイントを理解し、的確に発表しようとしている場面

4 栄養教諭のアドバイスを聞く。



ゲストティーチャーとして、栄養教諭にアドバイスをしてもらっている場面

5 本時を振り返り、次時のめあてを確認する。

GT 前回もみんな、素晴らしいなと思ったけれども、今日も SDG s を考えながら、すべて自分たちの力で献立を考えたことがすごいなと思いました。みんなからのアドバイスにもありましたが、先生も「こんなに食べられる？」と思ったところもありました。ボリュームや量は大切なことです。

また「地元のものを使う」と、地産地消のことを考えていたことは素晴らしいのですが、「本当に地元で栽培された商品が手に入るのか。」まで考えることが大切です。最後に朝食ですが、メニューは、とってもおいしそうで工夫されているよね。でも、朝を想像してみて。バタバタしているよね。そんな中、これ、作れそう？朝は手早く作れるのがいいかもしれませんね。時間・材料など、実際に「これならできる！」という献立を考え、実践してほしいと思いました。

T さて、すべてのグループの SDG s グルメを発表が終わりました。いかがでしたか？

C 私のチームは、量が多かったので、少し減らそうと思いました。地域のもの、国産のものと簡単に行っているけど、本当に地元のものがそんなにそろえるのか、調べていこうと思いました。

C SDG s のつくる責任・つかう責任が守れていたこ

〈感想〉 いつもの食事をほんの少し変えるだけでSDGsにつながる事が分かりました。私も家で栄養やSDGsについて、少しでも考えてみようと思いました。そして、みんなが少しずつ心がけることにより、やがて世界でSDGsを達成できるようになると思います。 最初は、SDGsが入っているレシピなんてあったのかなと思って調べたけど、調べていくとどんどん使えるものが増えていって少しびっくりしました。大人になってもこれを生かしたいと思います。 国産や地元のものを使うだけでSDGsを実践していたんだということをはじめて知った。今回はSDGsの8番と15番しかたっせいでできなかった。生活の中で他のSDGsをたっせいでいきたいです。	とに、気づかなかったから、知らないうちにSDGsが達成できていることもあるということが分かりました。 C 授業だけでなく、日常でも考えられるようにしたいです。 C ふだん捨てるみかんの皮を使うなんて、すごいなと思いました。また、卵の殻や米のとぎ汁を畑にまく、これは、すぐに家で実行できそうです。
--	--

＜考察＞

手立て1 つながりや関わりを豊かに創り出す子どもを育む条件を備えた地域素材の教材化

松ヶ江北小学校校区は、北西に山々が広がり、南東には周防灘があるなど豊かな自然に恵まれ、古くから農村・漁村として栄えてきた。また、猿喰新田をはじめとした美しい田畑が広がっており、毎年、ボランティアの方に協力していただきながら、野菜づくり体験を行った。

総合的な学習において、3年生「松北大豆大作戦」、4年生「我が町の誇り猿喰新田！PR大作戦！」、5年生「パラスポーツ de バリアフリー ～I'm possible～」、6年生では3年間の実践の積み重ねの集大成で、他教科等で習得した知識・技能を生かしてSDGsの視点と関連付けて、本気の伝え合いを行った。小学校6年間の学びの積み重ねは、子ども一人一人に大きな可能性を育んできた。本実践は、自分の将来像と今の自分とを結び付け、今の自分にできることを具体的に考えようとする事ができた。まさに、健康でなければ夢の実現に至らないのである。「食すること」は、「生きること」、持続可能な開発目標SDGsを意識しながら、「食」に関する知識と「食」を選択する力を習得し、自分にできる健全な食生活を本気で考えたり、自分の良さや可能性に気付く、自分の生き方につなげたりすることができた。

手立て2 地域の「ひと・もの・こと」とのつながりや関わりを大切に学習過程の工夫

子どもの興味・関心、教師の願い（どのような資質・能力を育てたいのか）、学習活動・教材の特性の3つの要素を踏まえ、およその単元の概要を思い描きながら設定した。子どもの主体的で粘り強い問題の解決や探究活動を生み出すには、子どもの関心や疑問を重視し、適切に取り扱うことが重要であると考えた。問題の解決や探究活動の展開において、意図した学習を効果的に生み出していくようにするためには、見取る力を教師が高めなければならないと感じた。評価基準を基に、関係付けたり、子どもの表情や振る舞い、発言からつないでいったりしていくのが、教師の存在である。発想の段階で生まれた様々な学習活動を一連の問題解決の流れと子どもの意識の流れに沿った展開として整え、課題の解決に向けた探究のプロセスが繰り返され発展的に行われることをイメージしながら授業をつくっていく。しかし、それは教師が導いた学びではなく、教師の教えたことを子どもの学びたいものへと、学びをコーディネートしたものである。

本単元は、「課題の設定」「情報の収集」「整理・分析」「まとめ・表現」という探究のプロセ

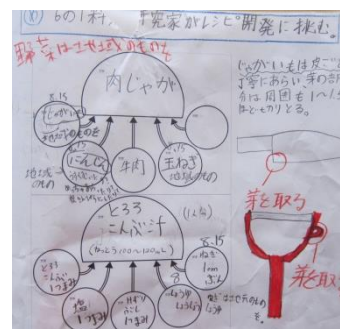
スがスパイラルに連続していった。その際、その連続が高まることで、課題が新たに更新され、また「調べてみたい」という探究心が生まれることが重要だと考えた。また、活動だけで終わってしまうのではなく、子どもたち一人一人の学びの向かう先はどこなのか、子どもたちがどのような概念を形成するかという、認識の高まりをゴールとして教師は常に描き続けておくことが大切である。

手立て3 気付きの質やものの見方、考え方を高め、学びの深まりを実感するための話し合い活動の工夫

①話し合い活動に効果的な思考ツールの活用

(ア) クラゲチャートで、材料・栄養素・SDGsの視点など関係付ける。

このクラゲチャートを活用することで、相手の考えや内容などを視覚的に捉え、それを基に比較検討をするなど子ども同士の対話の足場をつくった。互いの話に関心をもち、相手の発言を受けて話をつなぐことができた。



料理名を立て、メニューに関する情報を書き出している子どものワークシート

(イ) 色から見とれる視覚化カード

(三色食品群（五大栄養素）○カード、短冊カード、オリジナルカード)



(ウ) ICTの活用

学習に対する興味関心を高めたり、集中して取り組めたり、楽しく学習に挑むことができた。インターネットを用いた探索型学習やプレゼンテーション等での活用は、効果的なツールとして機能した。



インターネットを用いて、SDGsを意識したグルメ開発中



プレゼンテーションをしながら、オリジナルカードで分かりやすく提示する。この丸型は、クラゲチャートからアイデアが生まれ、順を追って、貼り出している場面

②教室環境

「大切なポイント」をいつでも思い出せるように学習のあしあとを教室に掲示した。日々の生活の中でふと思った時、「掲示物を見て、そっか!」と思い出し、問題解決をしたり、掲示物を見ることで、自分の食生活を振り返ったりするなど、掲示物の活用は、有効であったといえる。

<成果>

他教科との連携によって食生活に関する授業を展開し、SDGsの視点を意識しながらの学習は、子どもが様々な問題について思考し、知識や情報を基にアイデア満載の献立を考えたり、表現したりする主体的・対話的で深い学びの機会となった。また、教科等と給食の時間における「食」に関する指導を密接に関連付け、繰り返し指導したり、関連の深い教科等を中心にしつつ、教科等を横断して指導したりしたことで、「食」に関する知識や理解を深めることができた。

さらに、既習したことを生かしながら、誰もが健康で、安心な食生活を送ることができる社会の実現に向けての思いを確かにしていこうとする子どもの姿が見られた。

単元を通して、「食の専門家」である栄養教諭との連携を図りながら実践することができた。「食材の種類や栄養と健康との関わりについて」や、ねらいに合わせて気付かせたいことなど、的確にアドバイスを行ってもらうなど、授業の中で相乗効果をもたらした。

この学習を通して、広い視野に立って子どもたち自身の学びを意味付けることにつながり、「健康で、明るい社会で生きていくためには、食は欠かせないものである」という主体的な意識を芽生えさせていったと捉える。

<課題>

食生活がグローバルな社会・経済・環境とつながっているということを学ぶ機会として、栄養教諭の協働により、総合的な学習の時間に縛られることなく、各教科・領域や特別活動など、学校教育活動全体を通して適切に進めていくことが望ましいと考える。そこで、次年度は、食に関する指導の全体計画を更に見直し、各学年の発達段階に応じた指導を進めていくことが重要である。

また、「家庭や地域との連携を図りながら、主体的に取り組む学習の充実」が今後もより一層求められている。



前時で発表したグループのこん立てメニュー



体育科・総合的な学習の時間
「生活習慣病」について調べ、まとめたもの

3 日常における「食」に関する取組

(1) 食に関する指導

①給食の時間における指導

ア 1年生 給食で初めての煮魚に挑戦

魚の食べ方を手作りの資料で栄養教諭が指導し、日頃、魚を食べ慣れていない児童に食べる意欲を持たせることができた。



イ 「関門海峡たこ」の生産者との交流

地元のたこ漁師さんを招き、たこの特徴や漁の仕方、苦労話などを聞くと共に、実物を見たり、触ったりして食材に興味関心を持ち、楽しく味わうことができた。



ウ 給食の時間の放送

コロナ禍の中、会話を控えながら落ち着いて食事ができるように静かな音楽を流して、放送内容にも配慮した。毎日の献立放送については、和食献立、郷土料理、行事食、カミカミ献立、旬の食材、地産地消、食事マナーなど、その日の献立に応じたテーマでコメントを栄養教諭が作成し、放送委員会の児童が放送を担当している。

②他教科と関連付けた指導

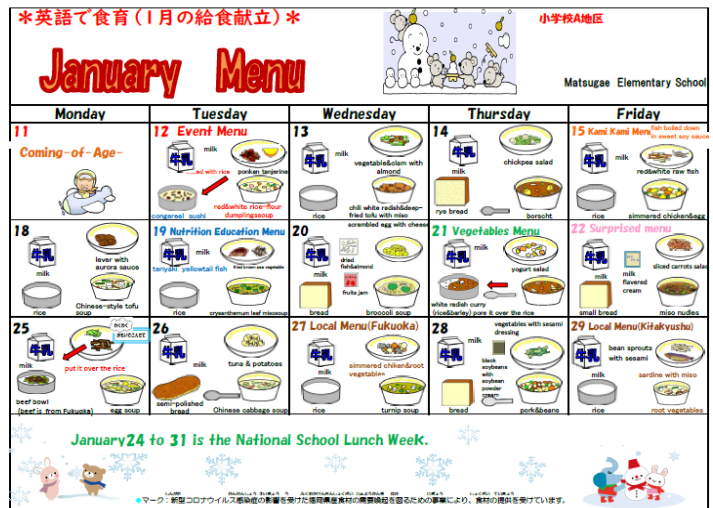
食に関する指導の全体計画に基づいて、栄養教諭と担任がTT授業を行った。

ア 6年生家庭科「工夫しよう おいしい食事」では、一食分の献立を考える学習の中で、修学旅行でのバイキング方式の食事の写真から普段の食生活を振り返り、給食献立と比較しながら健康的な食生活について考えさせた。既習の「ゆでる」、「炒める」調理法を使い、自分でできるバランスの良い食事を実践するための計画から調理実習までを、計画的に行った。

イ 2年生生活科「大きくなあれ わたしのやさい」では、なす、トマト、ピーマンなどの夏野菜を育て、収穫された夏野菜を使って野菜パーティーを行った。普段は野菜が苦手な児童も、自分が育てた野菜で作ったカレーライスでは野菜に愛着を持ち、食べようとする意欲を持たせることができた。



ウ 教室掲示用のイラスト献立表（配膳図）を英語で作成



高学年は教室に掲示し、身近な給食を通して英語に親しむ機会となっている。

(2) 家庭・地域との連携・啓発

① 学校ホームページの食育コーナー

保護者、地域へ「食」の情報発信を行うため、学校のホームページに食育コーナーを開設し、毎日の給食の様子を掲載している。今後、研究の様子などを広く発信する予定である。



今日の給食 毎日の給食をお知らせします。



2021年1月29日(金)

今日の給食

＜ご飯・牛乳・いわしのぬかみそ炊き・もやしのごま酢え・だご＞
今日の給食は、北九州市の郷土料理「いわしのぬかみそ炊き」と、福岡県の郷土料理の「だご」でした。ぬかみそ炊きは、しょうゆ、砂糖、酒を含めた調味料に「ぬかみそ」を加え、いわしや鯖等、良い時間煮て作ります。だごは、鶏肉やしいたけ、野菜等と煮て、とうもろこしをついた具ださんの汁物です。
郷土料理とは、その土地ならではの食べ物を言い、その地域で大切に作り継がれてきた料理で歴史や文化を感じることができます。今日は、郷土料理をおいしくいただきました。

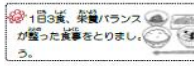
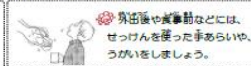
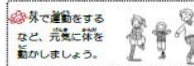
～北九州市立北九郎学校 食育だより たべもの通信 No.6

令和2年12月23日

今年も残りのわずかとなりました。年末も昨日で終わり、翌は1月12日から始まります。白昼から、しっかり食べたり、体を動かしたりして、暮さに負けない体づくりをしましょう。

寒さに負けない生活で かせ予防

ウイルスに負けない抵抗力を養い、体力をつけるために、次のことに気を付けてみましょう。



寒さに負けないための、食べ物を紹介します。

その① 魚・肉・豆・野菜・きのこ・海藻・たんばく質

魚肉・魚油・たんばく質はたんばく質でつくられています。また、たんばく質をとると体に強いバキが入るのを防ぐなど、抵抗力をつけたり、スタミナのもとになります。

その② 野菜類

野菜類は元々、2倍以上のエネルギーがあります。また、体を温めたり、抵抗力を高めたり、小腸を強くするなどのビタミンAが多い色のこい野菜や、はくさい、キャベツなどのビタミンCが多い野菜、そしてみかんなど手軽に食べられるものも上手に組み合わせて食べましょう。

その③ 野菜やくものビタミンC

野菜やくものビタミンCは、皮膚や粘膜をしっかりと守って抵抗力をつけてくれます。小腸を強くするなどのビタミンAが多い色のこい野菜や、はくさい、キャベツなどのビタミンCが多い野菜、そしてみかんなど手軽に食べられるものも上手に組み合わせて食べましょう。

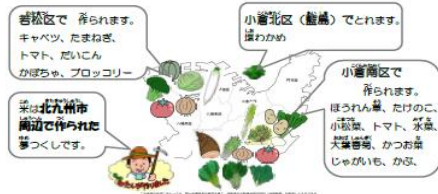


～北九州市立北九郎学校 食育だより たべもの通信 No.7

令和3年2月1日

『地産地消』とは、地元で産れた食べ物を地元で消費するという意味です。北九州市は島が近く、小倉南区や若狭区などにはおみやげや物産館があり、地元産の野菜や果物が手に入ります。学校給食でも、地元産の野菜や果物を利用して、『地産地消』に取り組んでいます。みなさんも献立表を見て北九州市で産れた食べ物を確認してみましょう。

給食でも使われている、北九州市産の食べ物を紹介します。



～1月24日から1月30日までは、全国学校給食週間でした。～

学校給食は、朝色朝、山形県産の小学校でお弁当を持ってこれない子どもたちのために、おにぎりや味噌汁などの食べ物を提供することが始まりとされています。松久北九郎小学校でも学校給食週間ではさまざまな取り組みが行われました。みなさんには健康士さんへのメッセージを書いてもらいました。健康委員会では、ビデオ撮影を行いました。また、食べる事で食をつけてほしいことを、ビデオで発表しました。各クラス3つの栄養士のグループを好きさらないで食べようとするのを元気にすすめることや、「ま・ご・は・や・さ・し・い」がキーワードとなる献立を準備して食べるといことを発表しました。アンケートも各クラスに書いてもらい、確認しました。献立発表では、好きな給食の1位が「カレーライス」というクラスが多かったです。

「ま・ご・は・や・さ・し・い」食べ物は、体の調子を整えて元気にすごすために、積極的に食べてほしい食べ物です。しっかりと食べましょう。

③給食試食会・学校保健委員会の開催（保護者）

毎年、保護者対象の給食試食会を学校保健委員会と同じ日に開催し、保護者に参加していただいている。

栄養教諭の講話や給食の時間の教室参観、給食試食を行い、学校保健委員会には、学校医や学校歯科医も参加して、児童の健康や「食」について広く考える機会となっている。



④松ヶ江北市民センターとの連携

ア 「ふれあい農園」での食育体験活動

一年を通して4年生児童が地域の方と一緒に野菜の栽培活動を行っている。「さつまいも」の植え付けや収穫は全校児童が行い、よい食育体験の場となっている。



イ 給食交流会の開催

市民センターと連携し、年7回、給食の時間に地域の年長者を招いて交流を深めている。年長者との触れ合いをとおして、楽しく会食すると同時に、食事のマナーを体験する場となっている。



（3）意図的・計画的な校内の環境整備

①給食室前の掲示コーナー

1年生の生活科「がっこうだいすき」の単元で活用するため、給食室内の調理作業の様子を写真に撮り、掲示をして関心を持たせるようにした。また、学校給食週間の取り組みとして全校児童が給食調理士さんへの感謝のメッセージを寄せ書きにして渡し、掲示コーナーにも掲示した。



②図書室の食育コーナー

食育に関連した書籍を月毎入れ替えて展示し、「食」への興味関心を高めるために意図的に整備した。その結果、令和2年度は料理や食品を含む「家庭科分類」の貸し出し冊数が令和元年度に比べて約3倍に増えていた。

